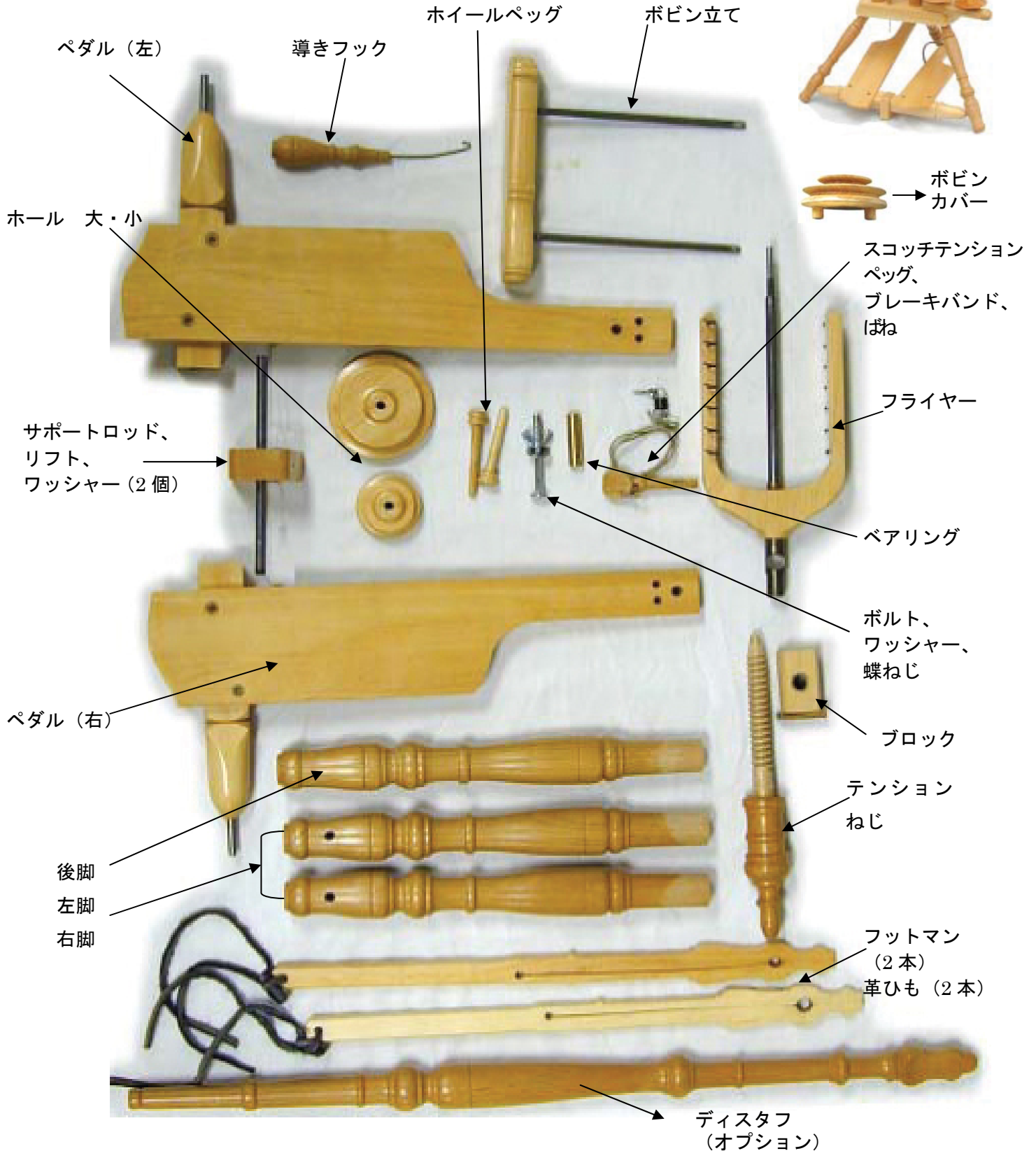
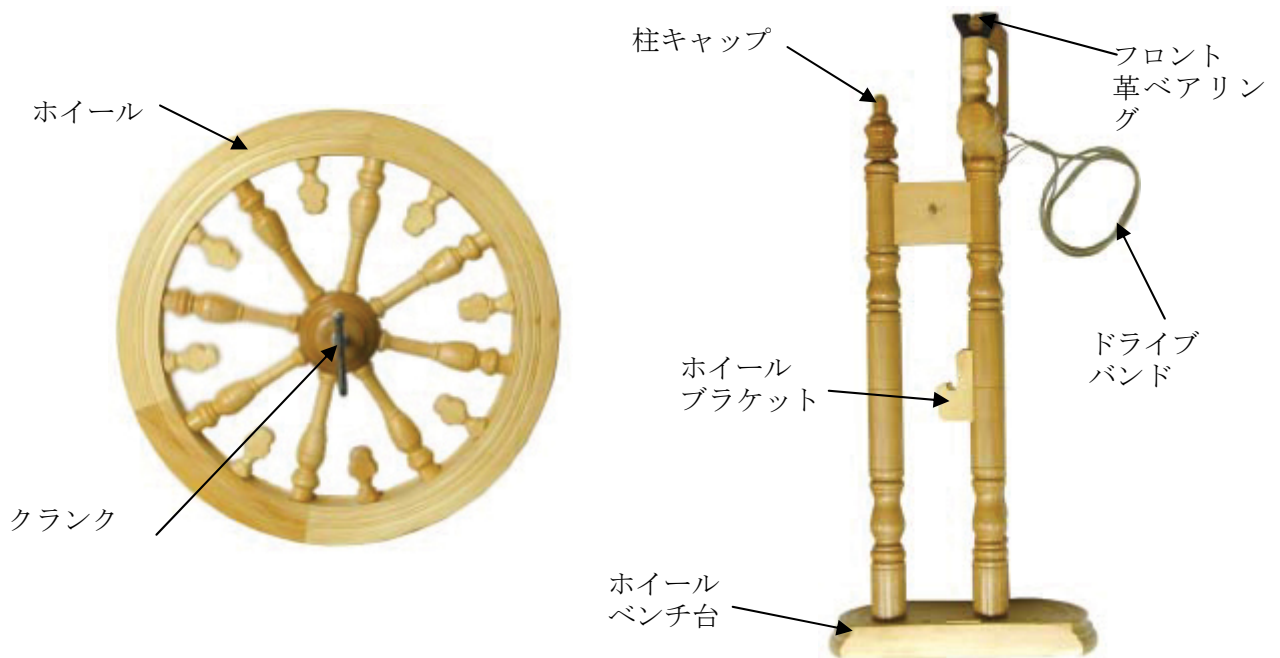


minstrel 組立説明書

白木をお求めの場合、オイルステイン塗料を塗られることをおすすめします。塗装は、湿気による木の歪みや汚れ等から紡毛機を守る役割をします。

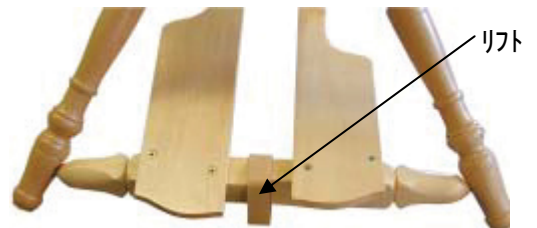
箱の中から全て取り出し、確認しましょう。





① 後ろ脚をベンチに取り付けます。

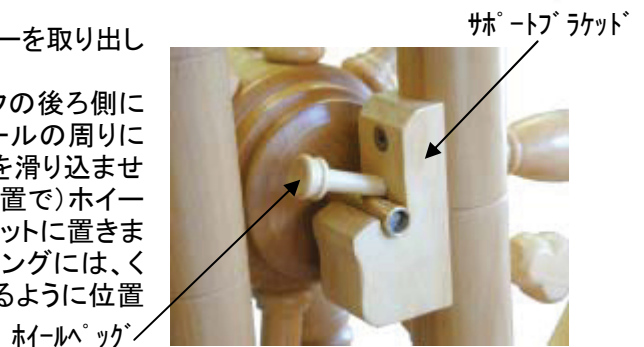
続いて左右の脚を取り付けます。脚とベンチにはマークがつられているので、印しに合わせ右・左を間違えないように差込みます。前脚を完全に取り付ける前に、ペダル部分を両脚に差込みます。(リフトの両側にワッシャー、その隣にペダルが通された状態)ペダル部分が差し込まれたら前脚をしっかりと取り付けます。



② ホイールを取り付けます。

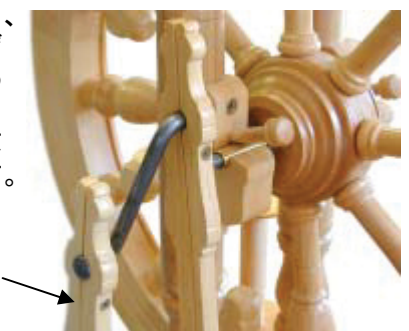
部品の入っている袋から、真ちゆうベアリングと小ワッシャーを取り出します。

(もう一つのベアリングとワッシャーは、はじめからクランクの後ろ側に取り付けられています。)ドライブバンドを2重にし、ホイールの周りに掛けます。手前のホイールの軸にワッシャーとベアリングを滑り込ませます。(ベアリングのオイル注入穴が車輪のハブに近い位置で)ホイールは2本のホイール柱の間に位置し、軸をサポートブラケットに置きます。写真のように、ホイールペグを差し込みます。ベアリングには、くぼんだ部分がありますので、その凹みの上をペグが通るように位置します。後側も同様にペグを差し込みます。



③ 2本のフットマンを取り付けます。

それぞれのフットマンの小さなねじをはずします。2本のフットマンのうち、大きい穴の空いた方が外側(後側)に位置します。切れ目をそと広げながらクランクにすべり込ませ、先ほどはずしておいた小さいねじでしっかりと留めます。もう1本のフットマンはホイールハブに近い位置に取り付けます。クランク上で滑らかに動くように、こちらのねじはゆるく留めます。そして、左脚に革紐で結びます。後側のフットマンは右脚に結びます。ペダルを踏んでみて、正常に動くかチェックしましょう。



—革紐の結び方—

フットマンの穴に通し、ペダルの1つ穴に紐の両端とも通す。ペダルの2つ穴にそれぞれ片方ずつひもを下から通し、上でしっかりと結ぶ。

※革紐の結び目がゆるんできたら、その都度結び直しましょう。

④ フライヤーの軸(スピンドルシャフト)にホールを反時計回りに回してとりつけます。

注意:ホールをはずすときは時計回りに回します。回す方向に気をつけてください。

大・小それぞれのホールに直径の違う2本の溝があります。またボビンカバーにも直径サイズの違う2本の溝がありますので、ドライブバンドをかける位置を使い分けてください。(常にホールの径がボビンカバーの径より大きくなるようにします。)

<撚りのかかるスピードが遅くなる場合>

大ホールを使用し、ホールの大きい円周の方にドライブバンドをかけ、ボビンカバーも大きい円周の溝に掛ける。

テンションねじを取り付けます。

テンションねじと革ベアリングのついたブロックを取り出します。ブロックをホイールの上の大きな縦長の穴に入れます。(革ベアリングが手前に向くように位置します。)テンションねじを後の柱の上から挿入し、時計回りにねじ込みます。次第にブロックが上がってきます。

ホイールの上にフライヤーを配置します。

U字状の革ベアリングは手前に位置します。2重にかけたドライブバンドのうち1本をフライヤーホイールの上に掛け、もう一本をボビンカバーに掛けます。フライヤー後部の金属の軸を、後の革ベアリングの小さな穴に挿入し、フライヤー手前の吸い込み口をU字の革ベアリングの上から押し込みます。

※革ベアリングにはオイルを塗ってください。革に油が浸透するまで繰り返し行ってください。

⑤ 小さな部品を取り付けます。

使用していないホールは、前面に位置する縦長の2本の柱の間にある金属製の飾りくぎにねじ留めをして収納します。(*注:反時計回りではめ込む/外すときは時計回り)ホール据え付けのねじ回しの方向を矢印で書いておくことをお勧めします。

導きフックはホイールベンチ台の穴に収納します。

予備のボビン2個を収納する為のボビンホルダーを取り付けます。

ホイールベンチ台の右側に、ボビンボビンホルダーを取り付けます。頭が丸くなっているボルトを、ボビンホルダー、ベンチの順に上から通し、ワッシャーそして蝶ネジを使ってホイールベンチ台の下で留めます。

柱キャップ・・・左・手前の柱の上にキャップをかぶせておきます。

(※ディスタフを使う時は取り外します。)※ディスタフはオプションです。ミントレル ディスタフをお持ちの場合、このオプションは左手前の柱に取り付けます。柱キャップを外し、水平の棒とディスタフを組み立てます。この棒を回転させてディスタフの位置を調整することが出来ます。

スコッチテンションの取り付け・・・(使用しない場合は次へ進んでください) スコッチテンションのブレーキバンドはバネに取り付けられた状態で部品袋の中に入っています。マザーオブオール左側の小さな穴にアイボルトを装着します。このアイボルトの輪になった先端をペンチで少し広げ隙間をつくります。ブレーキバンドが結ばれたバネをこのアイボルトの隙間から引っ掛けます。ブレーキバンドはボビンカバーの上を通過して、マザーオブオールの右側へ引っ張ります。マザーオブオールの右側の小さな穴にもう一つのアイボルトを取り付け、ブレーキバンドがこのアイボルトの穴を通り、最後にブレーキペグの穴を通ります。ブレーキペグにしっかり結びます。ベルトは長めになっていますのでペグ廻りに巻きつけておきます。ブレーキを使用しない場合(ダブルドライブ方式使用時)フライヤーの下あたりにバンドを垂らしておきます。

<紡毛機の調整>

* 2重になっているドライブバンドをホイールの廻りにかけ、1本はボビンカバーの溝もう1本はホールに掛けます。(ボビンカバーに掛けるベルトの位置はホールの円周より小さい方の溝にします。)テンションねじ(紡毛機の上)を回して、バンドの張り具合を調節します。バンドがホイールの上を滑らない程度で、しかもきつすぎないテンションです。紡ぎやすい位置を見つけてください。

<メンテナンス>

機械油を注す箇所

- * 前脚に取り付けられているペダルの両端の金属部分
- * ペダルサポート(右脚ペダルと左脚ペダルの間のすき間から見える金属の棒にオイルを注す)
- * フライヤーを支える革のベアリング
- * フライヤーやホールの金属部分
- * クランク/フットマンのつながっている金属部分
- * ホイールの軸にかぶせられた金属のベアリング2個(油注入穴があります。)

ワックス

木製ねじ部分にはワックスを塗ることをおすすめします。ろうそくや家具用のワックスを塗っておくと、よりスムーズにねじを動かすことができます。

La mer ラ・メール株式会社

〒606-8126 京都府京都市左京区一乗寺向畑町 26 番地 1

TEL 075-634-5942 FAX 075-634-5943

E_mail : lamer@joy.ocn.ne.jp

